

(要旨)

定 例 経 営 会 議 ・ 議 事 録

年 度	令和2年度	回 数	第8回
日 時	令和2年10月13日	午前9時30分～11時25分	
場 所	庁議室(本庁舎3階)		
出 席 者	渡部市長 野崎副市長 松谷副市長 村木教育長 南部議会事務局長 野口会計管理者 間野経営政策部長 東村総務部長 武岡地域創生部長 清水市民部長 平岡環境安全部長 大西資源循環部長 山口健康福祉部長 瀬川子ども家庭部長 粕谷まちづくり部長 田中教育部長 欠席者:なし		
次 第	1. 開会 2. 協議事項 (1) 令和2年9月定例会を振り返って 3. 報告事項 (1) テレワーク端末を活用した在宅勤務制度の積極的な活用について (2) 令和2年12月定例会提出予定案件・所信表明事項について (3) その他 4. その他 5. 閉会		
会 議 経 過	次頁参照		

1. 開会(市長あいさつ)

市議会9月定例会では、今後10年間のまちづくりの方向性を掲げる第5次総合計画基本構想をご可決いただいた。令和3年度はコロナ禍とはいえ、新しい10年の計画を踏み出す大事な初年度となるので、財政の健全性を意識しつつ、基本構想と基本計画に基づいて予算編成を行っていく。引き続き、基盤整備を最優先で進めていくことに変わりはないが、第5次総合計画基本構想で「私たちのSDGs」という理念を掲げているので、基盤整備とともに経済活動、環境や社会分野の施策の充実が必要となってくる。コージェネレーションを地域で設けていくことも考え、市内の経済循環率を高めることにつながるようなモデルを生み出すくらいの気持ちで、全庁的に取り組んでいきたい。また、人生100年時代をどのように豊かに過ごしていただくかについて、福祉的な施策も自立性を高めるということで就労支援にシフトしつつある。今後は勤労意欲のある方は70歳80歳まで働ける方は働いていただくなど、お一人おひとりが生涯にわたって健やかに暮らしていただくような世の中にシフトしていくと思うので、リカレント教育のような視点でもこれからの10年を考えていくことも必要である。

コロナ対策もあり当市では、これから業務もオンライン化、デジタル化が必須となる。業務そのものもデジタル化、オンライン化、ICT活用を、どういう手順でどう実装していくか、しっかりと議論しながら進めていく必要があると思う。今回、補正予算で盛り込んだように当市として初めて民間提案制度を活用して、東村山版 Society5.0 に向けて動き出すことになる。公共交通分野と買い物分野でデータ取りをして、さらに市内での人の動きの活発化、市内での経済循環率をどう高める仕組みが作れるかということで本年度、実証実験を行っていくが、各所管でも、「こんなことができるのではないか」ということを想定していただき、情報通信機器をうまく活用することによって少子高齢人口減少社会の中でも豊かな暮らしが営めるような地域づくりを情報面でも打ち出していく必要があると思っている。こうしたことを念頭にもう一度、来年度の予算編成、実施計画策定に向けて、再度、各部で検討いただきたい。

また、コロナ禍で今年度は当初予定していたイベント関係は、ほとんどできていない。令和2年度も半年経過しているので、前半に何ができて、何ができていないのか、今一度、しっかりと整理して、コロナ禍でも進めなければならない事業、イベントについては代替的に対応したものや、またはこれから実施するということがあれば、昨年度の予算編成当時に思い描いていた施策課題の解決、目標達成について、コロナ禍でもある程度成果が出せるよう、日々の業務に取り組んでいただきたい。

東京都はここ数週間、1週間レベルでは1,200名前後の感染者が続いている。当市では爆発的な流行ではないが、十分注意しながら業務体制構築していただきたい。PCRセンターも10月22日に開設となり、市民の皆さんに少しでも安心感を与えることができると考えている。

引き続き、課題や困難な問題もあるが、全庁的に力を合わせて、頑張っていきたい。

2. 協議事項

(1) 令和2年9月定例会を振り返って

- ・令和2年9月定例会を振り返って、各部の所感や課題を共有した。

3. 報告事項

(1) テレワーク端末を活用した在宅勤務制度の積極的な活用について

- ・在宅勤務制度、交代制勤務の積極的な活用について、再度庁内に周知徹底を行った。

(2) 令和2年12月定例会提出予定案件・所信表明事項について

4. その他

〈台風14号について〉

- ・市内では大きな被害は無かった。

5. 閉会